



名残の名建築
Legendary
Architecture

明石市役所庁舎

竣工年 1970年 所在地 兵庫県明石市中崎

現在の庁舎は市政50周年の記念事業の一環として企画され、1969年7月に着工し、翌年11月に落成しました。当時は、経済成長、地域開発が進み市の人口は増加の一途をたどっていました。旧市庁舎本館は今の庁舎から北西に約900m離れた本町2丁目（当時は西魚町）に1922年（大正11年）に建設され、築40年以上経過し、増築を重ねつつ18棟に分散し、市内にも水道部等の分散する部局がある等、市民サービス及び事務効率の低下が問題となっていたため、埋め立てによってできた中崎1番地を建設地とし建替えられることになりました。敷地面積約22,614.77平方メートル、建築面積3,628.76平方メートル、延べ床面積15,119.64平方メートルで計画されました。

その特徴は、市民サービスの向上を目指して窓口部門の集中化を図り、3階建て（一部4階建て）の議会棟、2階建ての窓口棟、8階建ての事務所棟を別棟とし、機能的に配置しています。一般事務室は、将来の行政事務の増大に応じられるように弾力性を考慮し大部屋方式を採用し、2階部分を基準階として前面に歩行者デッキを設けて人と車の流れを分離しています。しかしながら、当時の旧耐震基準で建設されており、耐震診断で「改修が必要」と判定されており、施設の耐用年数の目安となる築後50年が経過し、施設の老朽化の進行とともに、修繕範囲の拡大や維持管理コストの増大等の問題も大きくなってきています。



阪神淡路大震災による被害をも耐え抜いた市庁舎は、明石市民の生活を55年にわたり見守り続けそのバトンを新庁舎に引き継ごうとしています。新庁舎は3年後の2028年3月末に完成予定で、機能移転後に現在の庁舎は順次解体され、2029年に全ての工事が完成する予定です。

写真・新市庁舎パース提供：明石市 参考文献：「明石市史 現代編Ⅰ」 編集：明石市史編さん委員会 発行：明石市

文：工藤 泰平（明石支部）

目次	P.1	名残の名建築・明石市役所庁舎
	P.2-3	手描きパースセミナー 第21回 出前まちづくり委員会 in たつの 建築士試験の総括
	P.4	

メール配信と名簿のご案内
「集 tsudoï」誌面に掲載できない情報などを「兵庫県建築士会メールニュース」として配信しています。受信希望の方はホームページからメール配信登録をください。またホームページの名簿への掲載を希望される方は会員建築士名簿のページからお手続きください。



■建築に関する総合的な研修



2025年11月22日(土)
13:00-16:30
兵庫県中央労働センター
2階 視察実習(セミナー室)
神戸市中央区南長町3丁目1番10号

■講師紹介
阪神建築士会 会長 岡田 隆夫
2014年 日本建築学会 建築賞 受賞
2014年 日本建築学会 建築賞 受賞

■全日程
2025年に限定し、座学を併せての研修物の
制作を行います。研修に際しては、研修中の
に必要資料およびパース制作の資料を
配布させていただきます。研修資料は、研修
終了後、研修資料を配布させていただきます。
研修資料は、研修終了後、研修資料を
配布させていただきます。

■参加申込書

告知チラシ

前回の手描きパースセミナー Vol.6(同年6月28日開催)では、兵庫県立美術館の展示フロアの一部をお借りして、パースの座学はそこそこに、美術館をフィールドにして好きな景色を写真に撮り、それをパースにするなど、技術や知識を習得するというよりは、とにかく楽しくパースを描いてみるという内容でしたが、今回は反対に基本に立ち返り、非常に実践的で普段の仕事に直結する内容で、今年度の2回を通して、バランスよく学ぶことができました。



講師による説明

今回の内容としては、講師の阪本さんが実際に仕事で取り組んでいるリアルな敷地内にある平屋の建物に、用途を各自で設定してその内装を設計し、パースにするもので、非常に実践的で基本に忠実なものでした。

■「つなぐ未来へ龍野の町並み」修理実績報告会

「龍野」は、2019年12月に「たつの市龍野伝統的建造物群保存地区」として、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、町並み保存の取り組みが進められている。この度、選定後の修理事業やまちづくり活動を振り返り「龍野」を次世代に伝えるための取り組みへ進化させることを見据えて報告会を開催した。

■開会挨拶

岸野裕児氏 (兵庫県建築士会まちづくり委員会委員長)

出前まちづくり委員会は、1999年から隔年で開催している。龍野の町並みに関して、建築士会は重伝建地区選定に向けた保存調査報告書の作成、連携協定の締結等、龍野地区に全面的に関わりながら町並み保存を進めてきた経緯がある。



■来賓挨拶

山本実氏 (たつの市市長)

建築士会の皆様には、歴史的まちづくりについて、事前調査から推薦、連携と多大な協力をお願いしていることに御礼申し上げます。重伝建選定後、14件の修理・修景を実施することができた。今後も町並み保存に支援を賜りたい。



■基調講演「立ち上がり期と今をみて」

木村篤典氏 (たつの市都市政策部町おこし課課長)

龍野地区が町並み保存への取り組みを始めたのは昭和50年頃からで、当時は行政主導で重伝建地区選定申出を行おうとしたが住民合意が得られなかった。その後、景観制度を活かした町並み保存を進めていくうちに、2000年代に入ってまちづくりに対する機運が向上し住民主導で進めていくことができ、全国で119番目の重伝建地区選定に至った。その後コロナ禍による影響はあったものの、龍野地区への来訪者が増加し、新規出店者の増加や民間まちづくり会社の設立など賑わいが出ている。今後は龍野地区への関係人口を増やし、生活と観光が共存するまちの実現を目指していきたい。



■基調講演「伝建事業について」

小谷慧氏 (たつの市都市政策部町おこし課町並み対策係主査)

伝建制度の運用主体は市町村で、何を規制し保存措置を講ずるかは市町村の責任で行う。伝建事業は、保存修理、現状変更行為許認可、関係機関の調整等があり、保存地区全体の生活環境の向上と文化環境の発展が目的である。市担当者は人事異動がある。保存修理等で「群」としての質を確保するため、龍野に特化した専門機関の設立及びサポート体制の確立が急務である。



小さなスペースの内装とはいえ、用途を設定して設計から始めるので、3時間程度という短い時間内にパースまで描き終われるのか?と悩みましたが、阪本さんの適切な時間配分と、参加者の皆さんの真剣な姿勢と取り組みで無事、描き終えることができました。

今回のパースセミナーには工務店を経営するご夫婦が参加されていて、普段はあまり使うことはないが、ちゃんとパースを身に付けたいので参加したとおっしゃっていたのが印象的で、我々がパースセミナーを続ける意義を実感しました。一方で、今年度は2回とも内容は非常に充実したもので良いにも関わらず、思ったように参加者が集まらなかったのが残念でした。事業の周知と集客が次年度以降の課題と考えています。



写真・文：高麗 憲志（青年委員会）

集合写真

■開催概要

- 日時：令和7年11月22日(土) 13:00～16:30
 ■講師：&Architect一級建築士事務所 阪本 剛史氏
 ■会場：兵庫県中央労働センター2階視聴覚室(セミナー室)
 ■参加者：9名(士会員:5名、非会員:3名、学生1名)

5 実績報告

以下4名の設計者から担当物件の概要や修理方針決定について苦勞したことなどの報告があった。

- 清水克俊氏（岸本家住宅）
 渡邊一洋氏（古林家住宅）
 酒井吉一氏（小田家住宅）
 福岡隆夫氏（片岡家住宅）

6 現地視察

実績報告の順に現地を巡り、修理物件を見学しながら各実績報告者から現地説明を行っていただいた。



8 閉会挨拶

正木恵子氏（兵庫県建築士会会長）
 これまでの龍野地区との信頼関係で築いてきたまちづくりであると思う。建築士会としても今後も力添えしていきたい。



■開催概要

- 日時：令和8年1月16日(金)13:00～17:00
 ■会場：たつの市中央公民館
 ■参加者：27名(会員20名、一般7名(うち市職員3名))

7 意見交換会

ファシリテーターを森崎輝行氏（兵庫県建築士会歴史的建築物委員会委員長）、パネラーを実績報告者4名とたつの市小谷主査として以下の4項目について意見交換を行った。

- ① どの時代にあわせる？
 - ・昭和初期（板敷であるべき姿が特定）
 - ・施主の意向と痕跡の整理（安原家では江戸）
 - ・「古い建物が良い」という施主の希望
 - ・施主の階高が低い時（江戸）に戻したいという想いと、医院建築の文化財的価値
- ② 工夫したこと 工事費、工法、近隣
 - ・伝建だからといって特別な工夫はしなかった。（文化財修理同様、資料や痕跡整理を丁寧に）
 - ・意匠保存だけでなく、所有者の方が納得して喜んでもらえるようにした。
 - ・構造補強は特に要望なかった。（耐震評価なし）
 - ・痕跡調査時に建物内の家財を動かすのが大変だった。
 - ・隣と横続きになっていたので工事中の騒音なども含めて苦勞したが、施工者が地元の方で施主とのパイプになってくれたので良かった。
- ③ 重伝建をまちの将来にどう活かすか？
 - ・重伝建にふさわしいファサードが連続していくことが望ましい
 - ・土地用途によるが、商店街については店舗が増えてにぎわっていくのがいい。
 - ・インバウンドが増えている。
 - ・重伝建地区の大半はお年寄りが多いため、今後空き家になり、新しい人が住むようになると思うが、住んでいる人の思いを理解して守っていきける人が入ってくれば良い。
 - ・龍野地区は、県の景観形成地区に指定されていたので伝建制度導入の話もしやすかった。
 - ・地域が持つポテンシャルは高い。
 - ・何を魅力としてPRするかブランディングを行い、どう活かしていくかが大事。
 - ・設計団体を設立しある程度の水準を保てるようにしていくことが大事。
- ④ 龍野らしさとは？
 - ・城下町なのに龍野城の話が出てこない。町人地と城下町は一体で考える必要がある。
 - ・昔から重伝建しようという話があったが、その時は今の区域よりもっと広い指定案だった。
 - ・地域住民は脇坂氏の歴史を大切にしている。
 - ・保存地区と周縁部も含めた魅力発掘及び活性化を図っていく必要がある。



写真・文：田中英男（まちづくり委員会）

令和7年度の建築士試験の合格者発表が、昨年末にありました。全国と兵庫県の合格比率を整理した試験総括をお届けします。新たに建築士になられた方々に建築士会に入会頂ける様に広報したいと思います。

一級建築士

	全 国		兵 庫 県	
	学 科	製 図	学 科	製 図
実受験者数	27,489名	11,381名	1,066名	392名
合格者数	4,529名	3,988名	166名	132名
合格 率	16.5%	35.0%	15.6%	33.7%
総合合格率	11.4%		10.0%	

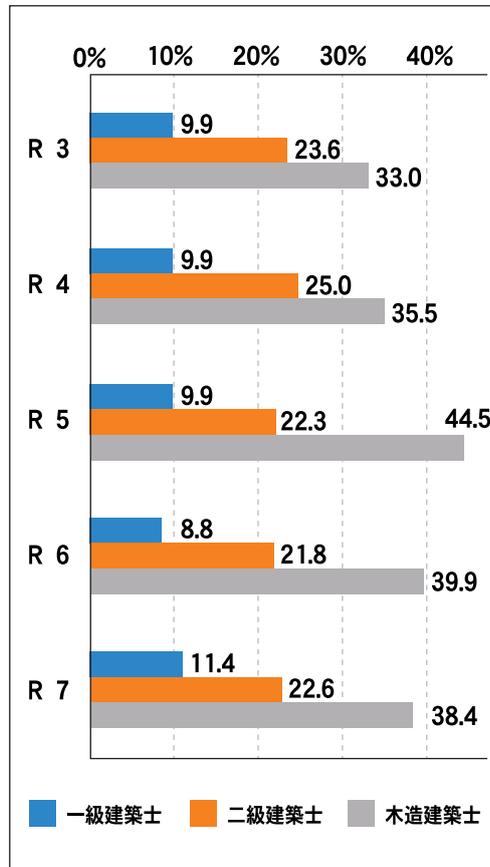
二級建築士

	全 国		兵 庫 県	
	学 科	製 図	学 科	製 図
実受験者数	16,383名	10,006名	586名	343名
合格者数	6,698名	4,645名	243名	177名
合格 率	40.9%	46.4%	41.5%	51.6%
総合合格率	22.6%		-	

木造建築士

	全 国		兵 庫 県	
	学 科	製 図	学 科	製 図
実受験者数	443名	245名	20名	11名
合格者数	231名	181名	10名	7名
合格 率	52.1%	73.9%	50.0%	63.6%
総合合格率	38.4%		-	

過去5年の合格率の変位



構造設計一級建築士

	令 和 6 年	
	実受講者数 修了者数	修了率
申込区分Ⅰ (全科目受講)	635名	24.9%
	158名	
申込区分Ⅱ (法適合確認のみ受講)	58名	69.0%
	40名	
申込区分Ⅲ (構造設計のみ受講)	69名	52.2%
	36名	
講義の一部・修了検査免除者 (旧申込区分Ⅳ)	0名	-
	0名	
合 計	762名	30.7%
	234名	
兵庫県修了者8名		

設備設計一級建築士

	令 和 6 年	
	実受講者数 修了者数	修了率
申込区分1 (全科目受講)	170名	32.9%
	56名	
申込区分2 (法適合確認のみ受講)	32名	68.8%
	22名	
申込区分3 (設計製図のみ受講)	8名	100.0%
	8名	
申込区分4 (建築設備士)	153名	64.1%
	98名	
申込区分5 (全科目免除)	0名	-
	0名	
合 計	363名	50.7%
	184名	
兵庫県修了者5名		